

令和7年度社会福祉連携推進・協働セミナー（WEBセミナー）

人口の変化に対応した 地域包括ケアシステムの構築に向けて

～中山間地域の共通課題を地域で連携して～



一般社団法人妻有地域メディカル&ケアネットワーク
包括ケア研究部会 部会長（理事） 松村実

<https://care.tokamachi.life/>

所属：社会福祉法人十日町福社会 常務理事

<https://www.fuku-tokamachi.or.jp/>

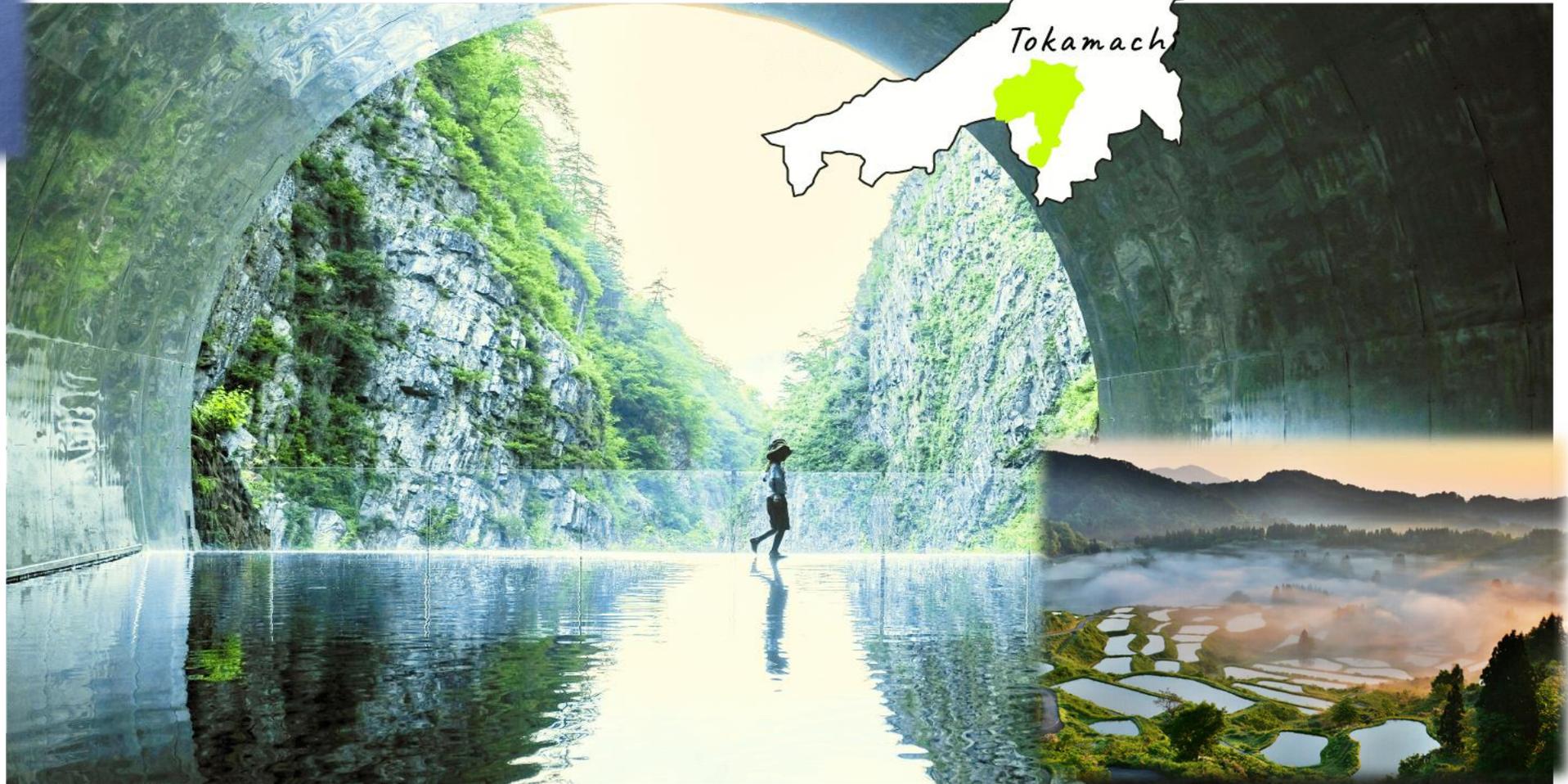
1. 妻有地域の状況

十日町市、津南町を総称して妻有（つまり）地域と呼んでいます。諸説ありますが、信州や上州につながる土地柄で宿場があり、「つまり」と呼ばれていたことによるとのこと。また、「どんづまり」が転訛したともいわれています。

新潟県十日町市、津南町（^{つまり}妻有地域）



四季折々の姿を見せる土地

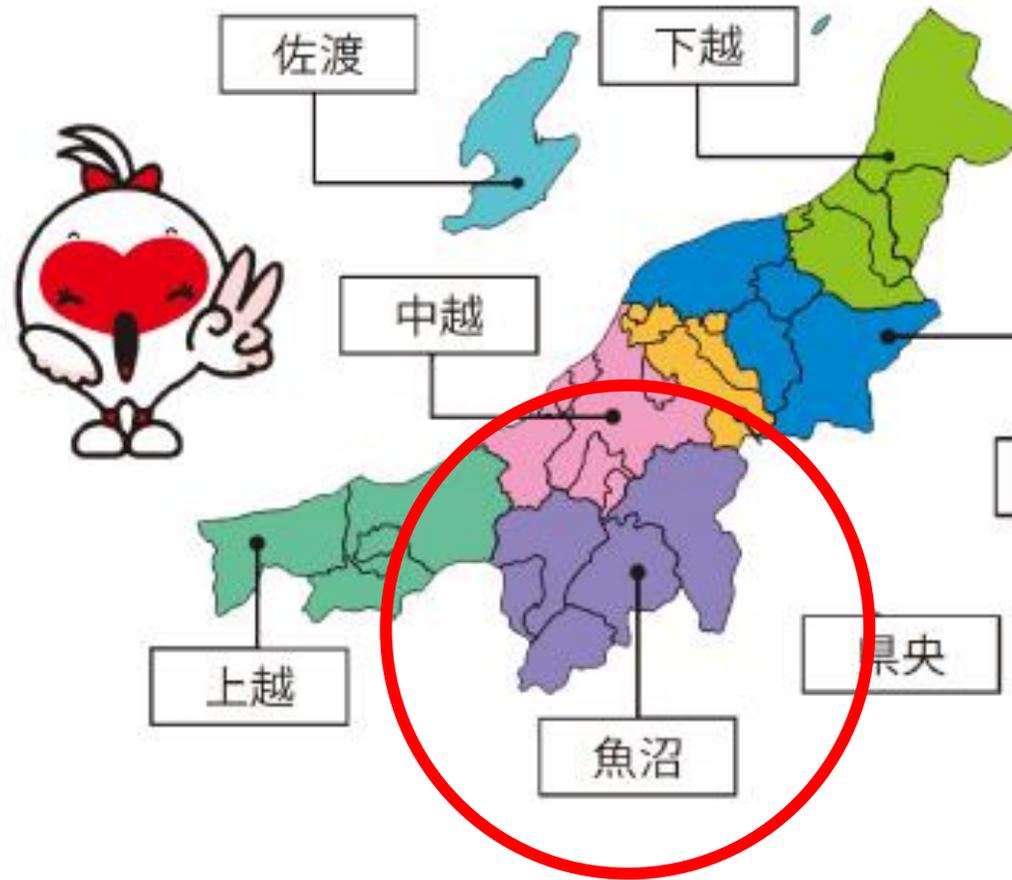


ECHIGO-TSUMARI
ART FIELD 2025

えちごつまり
越後妻有
夏秋 2025

2025.7.19.SAT-11.9.SUN

魚沼医療圏（2020年人口：約15万6000人）



信濃川筋

- 十日町市
- 津南町

妻有地域

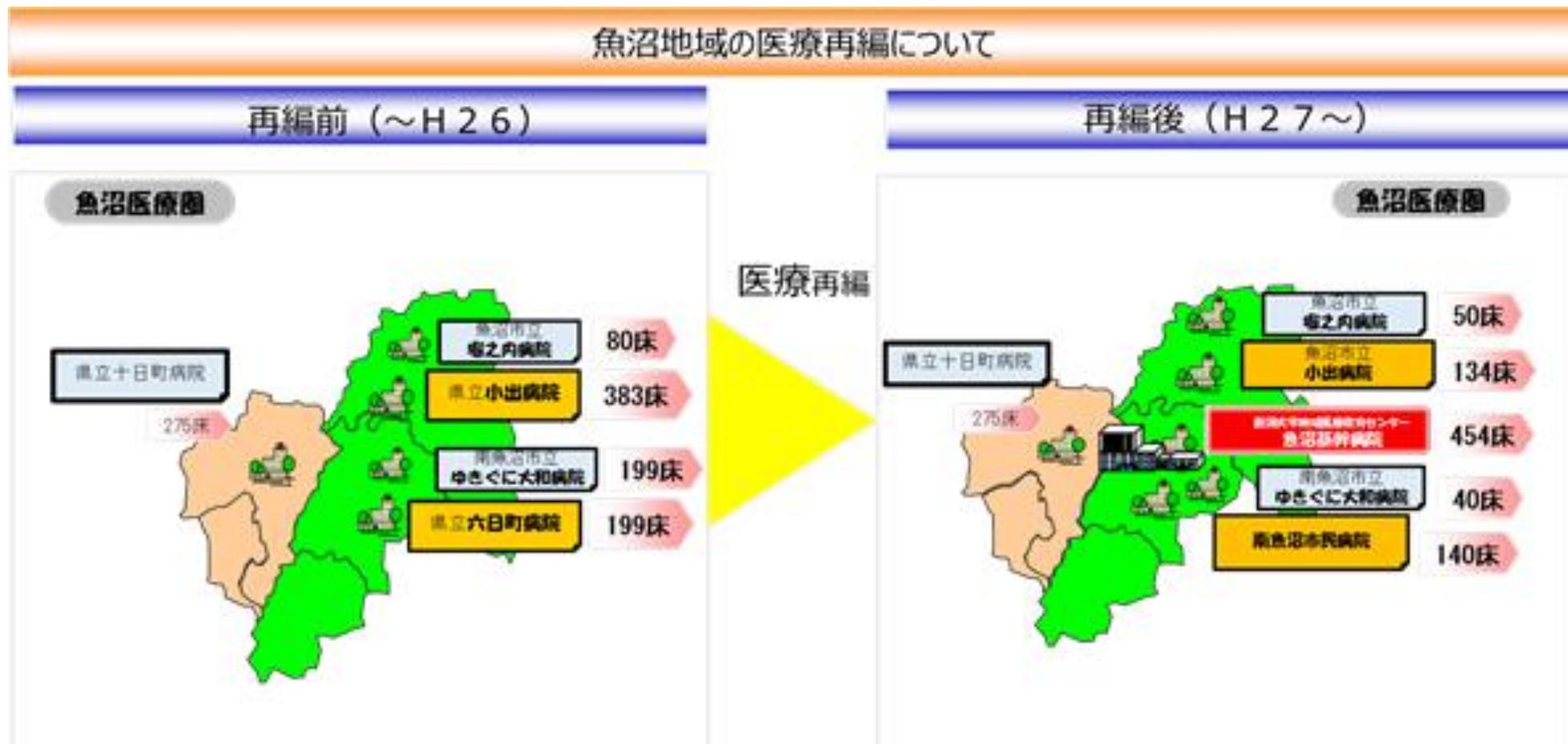
魚野川筋

- 魚沼市
- 南魚沼市
- 湯沢町

	人口	高齢化率
十日町市	46,406人	42.02%
津南町	8,307人	44.91%
計	54,713人	42.51%

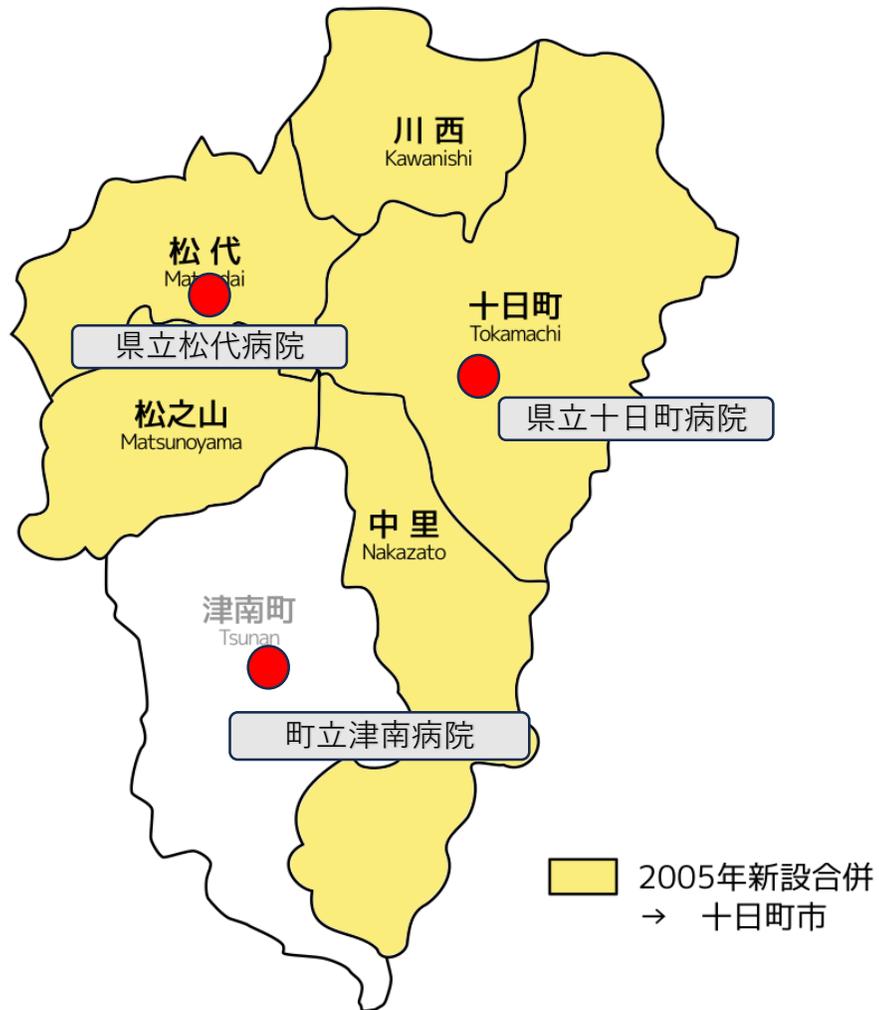
2025年6月末住民基本台帳より

魚沼医療圏の病院再編



信濃川筋の3病院（県立十日町病院、県立松代病院、町立津南病院）はこの再編の動きには含まれなかった

2005年の市町村合併後の十日町市



2つの県立病院

- 十日町病院（旧十日町市）
- 松代病院（松代町）

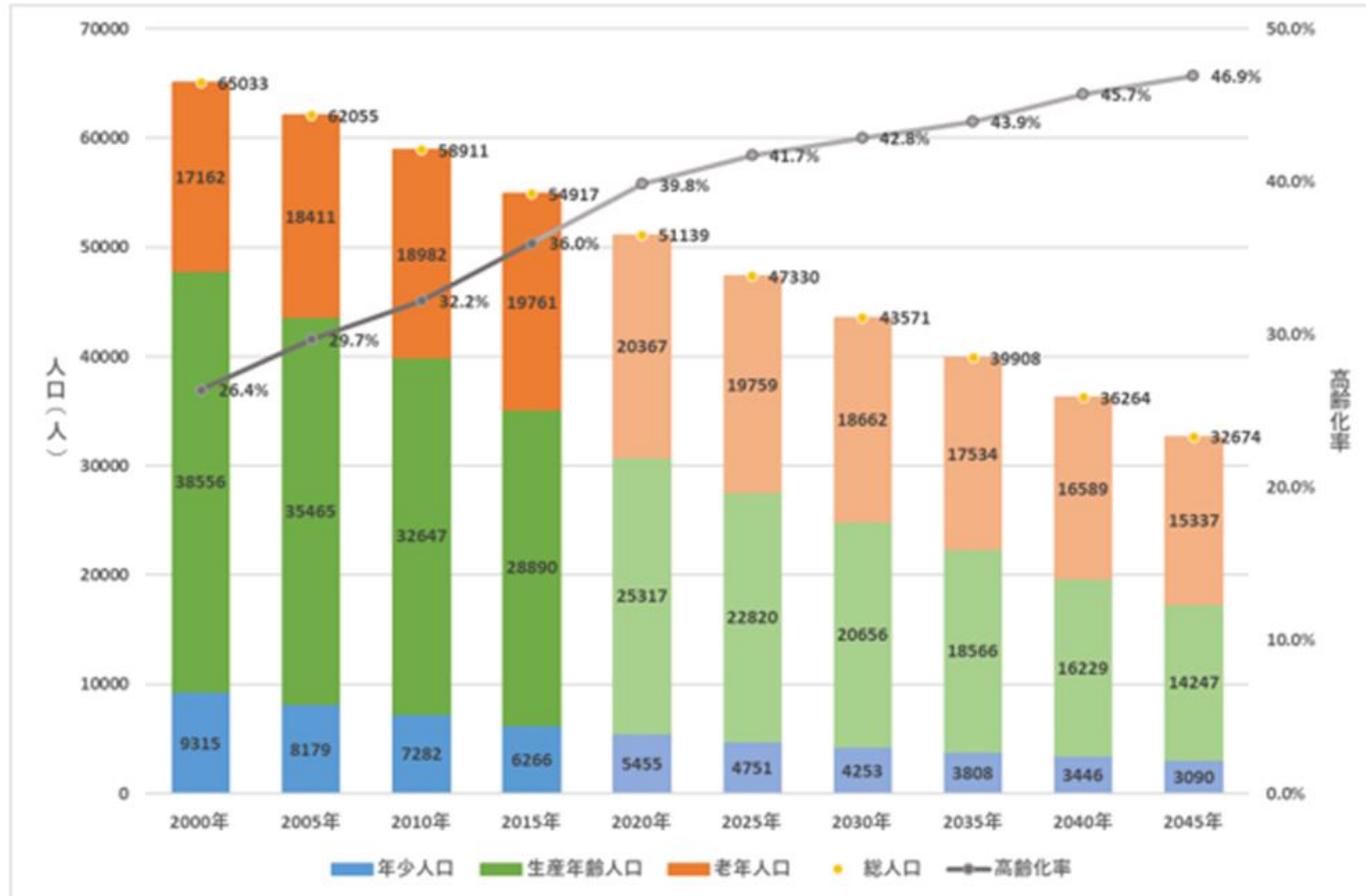
4つの国保診療所

- 川西診療所（川西町）
- 松之山診療所（松之山町）
- 倉俣診療所（中里村）
- 室野診療所（松代町）

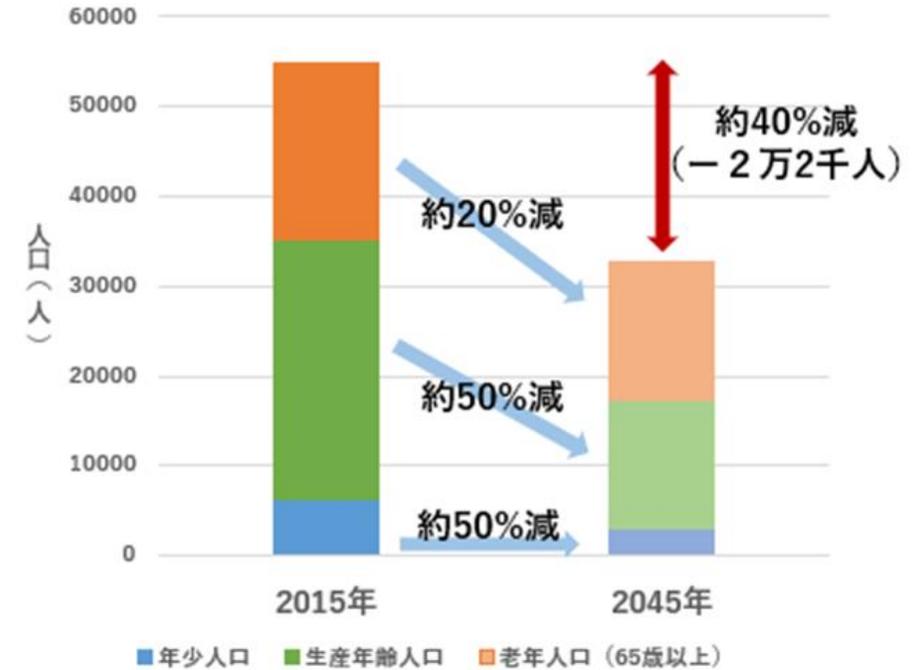
現在は閉院/休院

妻有地域の医療・介護について

十日町市の人口の推移と将来推計 (2015年：国勢調査結果 2020年～2045年：推計)

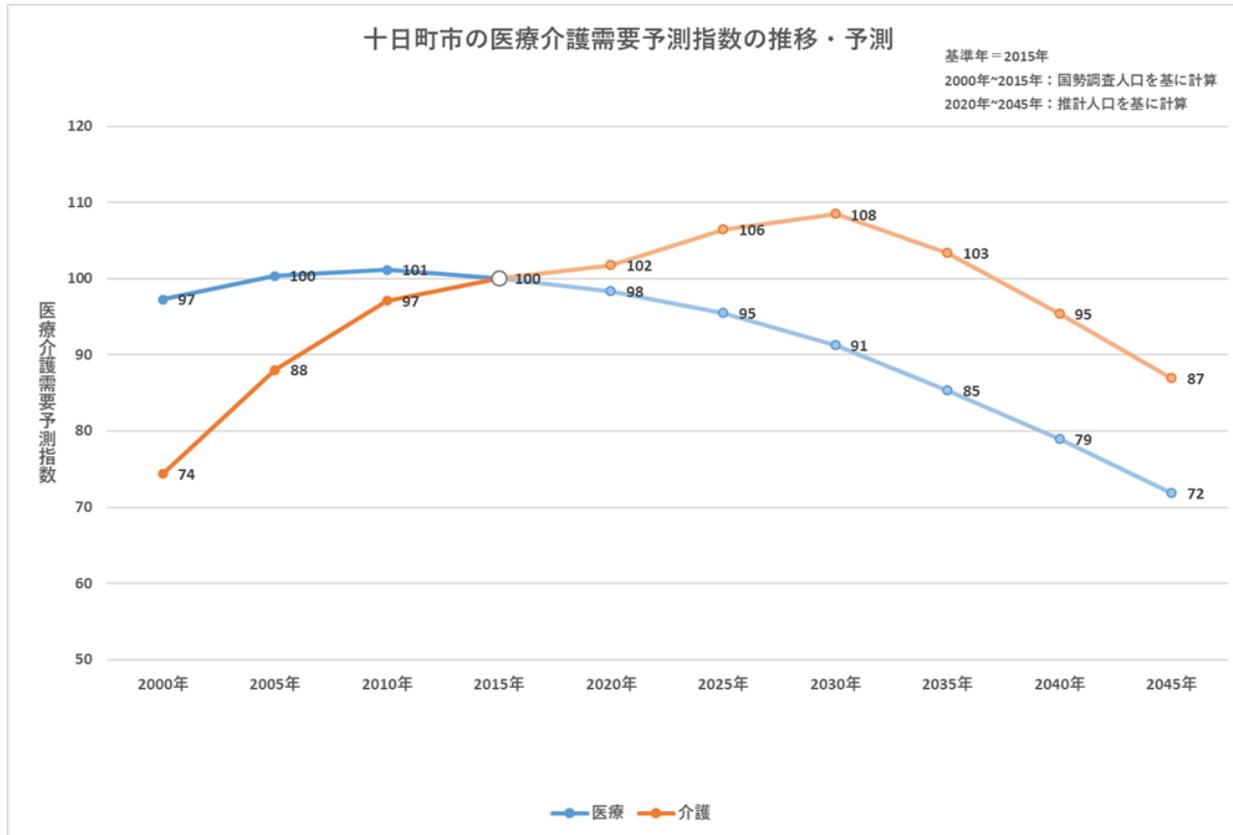


国立社会保障・人口問題研究所：日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）より



- 十日町市の総人口は2015年の5万5千人から2045年の3万3千人へ30年間で2万2千人以上（約40%）の減少が予測されています。
- この間、老年人口（65歳以上）の減少は約20%（4千人）の減少に留まる一方で、生産年齢人口（15歳～64歳）は約50%（1万5千人）減少する見込みです。
- 2040年以降は老年人口が生産年齢人口を上回ることになります。

十日町市の医療・介護需要



- 十日町市全体の医療需要予測指数は2045年の72まで減少傾向となると予測されている。
- その一方で75歳以上の高齢者の増加に伴い介護需要予測指数はしばらく上昇し2030年にピーク（108）となり、その後2045年の87まで減少すると予測される。
- 生産年齢人口の減少を考えると、2015年を基準として2045年には約半分の生産年齢人口で、72%の医療需要量、87%の介護需要量をカバーする医療と介護の提供体制が求められる

<参考資料> 十日町市内特養ホーム等年間退所状況

※新潟県サービス公表HPより引用 R2実績

類型	形態	施設名	定員	年間退所人数	定員対比	備考
広域型	ユニット型	A	70	16	22.86%	
広域型	従来型	B	100	16	16.00%	
広域型	従来型	三好園	100	31	31.00%	
広域型	ユニット型	あかね園	44	22	35.50%	合算
密着型	従来型	あかね園	18			
広域型	ユニット型	三好園しんざ	50	16	32.00%	
密着型	ユニット型	三好園四宮	20	6	30.00%	
密着型	ユニット型	よしだ	29	6	20.69%	
十福苗場合計		小計	431	113	26.22%	

他法人	形態	施設名	定員	年間退所人数	定員対比	備考
広域型	従来型	C	50	15	30.00%	
広域型	従来型	D	60	15	25.00%	合算
密着型	ユニット型	E	20			
広域型	従来型	F	50	18	36.00%	合算
密着型	ユニット型	G	29			
広域型	従来型	H	48	13	27.08%	
広域型	従来型	I	65	28	43.08%	
市内特養合計		小計	322	89	27.64%	
老健	従来型	J	100	19	19.00%	
		小計	100	(R5.3閉園)	19.00%	
特養老健合計		合計	753	221	29.35%	

参考	形態	施設名	定員	年間退所人数	定員対比	備考
特定施設		K	49	13	26.53%	
		小計	49	13	26.53%	

※特定施設は特養機能を持つ

十日町市内

	定員	年間退所人数	定員対比
特養老健総合計	802	234	29.18%

津南町特別養護老人ホーム等年間退所状況

広域型	従来型 L	110	33	30.00%
	従来型 M	87	26	29.89%
	従来型 小計	197	59	29.95%
※地域密着型は数値公表ない為25%換算				
密着型	N	29		
密着型	O	29		
密着型	P	29		
	小計	87	21	25.00%
津南町合計		284	80	28,17%

3. 妻有圏域合計値					
特養・老健・ 特定施設		定員	退所数	定員対比	
妻有圏域合計	総合計	1,086	314	28.91%	

令和4年度十日町市介護人材実態調査

- 調査実施期間：令和5年1月4日~2月28日
- 対象：十日町市内の介護保険事業所（99事業所）
（回収率84.8%：84事業所）

職員の不足

不足人数の総数：120人

- 介護職員の不足：52人
- 看護職員の不足：24人
- 訪問介護員：13人

職員の高齢化

60歳代以上の職員の割合

- 看護職：50.4%
- 訪問介護員：44.9%

圏域で起きている人材不足の影響

- 訪問看護ステーションの休止
- 訪問看護ステーションの24時間体制の休止、サービス提供体制の縮小
- 老人保健施設の閉院（100床） ※人材不足
- デイサービス等の稼働率を下げて（受け入れ人数を定員より少なくして）職員を捻出し、法人内の他のサービス提供体制を維持
- ホームヘルパー事業を閉じて、入居系事業所の人員を補う など

妻有地域（日本全体）の医療・介護の課題

圧倒的な支え手、担い手不足が今後到来する
（特に介護・障害）

2. 妻有地域での取り組み

妻有地域包括ケア研究会の取り組み

妻有地域包括ケア研究会とは

「妻有地域包括ケア研究会」は、新潟県十日町市、津南町（通称「妻有地域」）の、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくことのできる地域包括ケアシステムの構築を目指して2016年（平成28年）4月に結成されました。

社会福祉法人と行政が一体となって、妻有地域の現状や課題、将来像等について、協議検討・提案等を行うことで、より質の高い福祉サービスの提供と人材育成、福祉の仕事のイメージアップに取り組むためのプラットフォームと言えます。

行動理念

妻有（ここ）で生まれ、
妻有（ここ）で育ち、
妻有（ここ）で暮らす

○社会福祉法人：（発会当時12法人）
十日町市社会福祉協議会 やまびこ 松代福祉会
苗場福祉会 妻有福祉会 十日町福祉会
松涛会 東頸福祉会 なかさと福祉会 清津福祉会
つなん福祉会 津南町社会福祉協議会
○行政機関：新潟県十日町地域振興局健康福祉部
十日町市医療介護課、福祉課 津南町福祉保健課

4つの重点目標

その1

地域包括ケアシステム構築に 向けた取り組み

- ①福祉、医療、行政など関係機関との連携への取り組み
- ②地域共生型社会の構築に向けた取り組み
- ③新たなサービスづくりへ向けた取り組み

その2

人材育成、サービスの質の向上に 向けた取り組み

- ①人材育成への取り組み
- ②サービスの向上に向けた取り組み
- ③未来の担い手育成への取り組み

その3

法人間の連携強化への取り組み

- ①法人間の連携強化へ向けた取り組み
- ②社会福祉法人の公益的取組と地域貢献活動の研究への取り組み
- ③法人間の情報共有の仕組み作りの取り組み

その4

組織体制の強化

医療、介護、福祉の連携プラットフォームづくり

主な活動（2019年～2022年）

「新潟県介護事業所ネットワーク化推進事業」（助成金）により、活動の充実を図りました。

多職種協働セミナー



まちの発見塾



スキルアップ研修会



新入職員研修会



共生塾

妻有地域の
「妻有共生塾」
令和元年10月8日（火曜日）
～9日（水曜日）

みなさんで一緒に考えましょう！

地域共生社会づくりを考

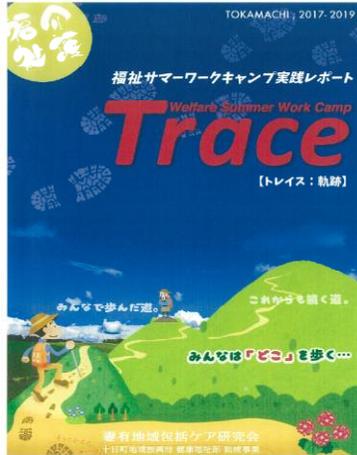
会場：津南町文化センター
津南町大字下船通丁2806-3
電話025-765-3134

TEL 025-750-5010

主催：妻有地域福祉ケア研究会
後援：十日町地域福祉推進協議会、十日町市、津南町

担当 村上村
mail: home@kwm-shakyou.or.jp

未来の担い手育成



出張授業（ガイダンス）



法人役員研修会



その1

地域包括ケアシステム構築に 向けた取り組み

- ①福祉、医療、行政など関係機関との連携への取り組み
- ②地域共生社会の構築に向けた取り組み
- ③新たなサービスづくりへ向けた取り組み

① 新型コロナウイルス感染症対策で医療機関、
医師会、行政機関との連携を強化
→ 「**新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会**」への参画

→ 十日町市、津南町と協働し「**感染症対策
セミナー**」を企画、運営

→ **ワクチン集団接種（職域接種）**の企画・運営

→ **感染症専用サイトの構築**
「**妻有地域メディカル&ケアネットワーク**」

<https://care.tokamachi.life/>

② 「**地域共生社会づくりモデル事業**」

→ **大地の芸術祭への参加**

日比野克彦「喫茶TURN」作品オペレーション

https://www.echigo-tsumari.jp/art/artwork/cafe_turn/

酒生宏一「みどりの部屋プロジェクト」ワークショップ参加

https://koichisakao.org/green_room/2022plan



感染症対策スキルアップ研修

主催：十日町いきいきエイジング講座・妻有地域包括ケア研究会
感染症対策セミナー
オミクロン株流行を振り返り、
これからの感染症対策を考える

新型コロナウイルス感染症はオミクロン株の感染流行により今年7月上旬よりから第7波が押し寄せ、爆発的な感染を起こし、管内の福祉介護施設で複数のクラスターが発生しました。
そこで、今までの感染症対応を振り返り、これからの感染症対策の在り方について専門家を交えて考え、今後の方向性を見出し、理解を深めます。

・日時 令和4年11月10日(木曜日)
午後4時00分～5時30分

・座長 十日町いきいきエイジング講座
特任助教 白倉悠介先生
・助言者 県立十日町病院 内科部長 坂 好寿先生
感染症認定看護師 菅井洋子氏

・事例提供者 2名(予定)

・方法 zoomウェビナーによるオンライン研修会

・申し込み 不要です。下記アドレスで入室できます。
(11月10日午後3時45分より入室できます)
URL:<https://care.tokamachi.life/221110/>



お問合せ先 事務局
十日町市社会福祉協議会 担当 柳
電話 025-750-5010 / fax 025-752-7020
E-mail jimukyokutyo@tkm-shakyo.or.jp

主催：十日町いきいきエイジング講座・妻有地域包括ケア研究会
協賛：十日町地域包括ケア推進協議会・つりま里介護連携センター
十日町市 津南町 (すべて予定)



「地域共生社会づくりモデル事業」

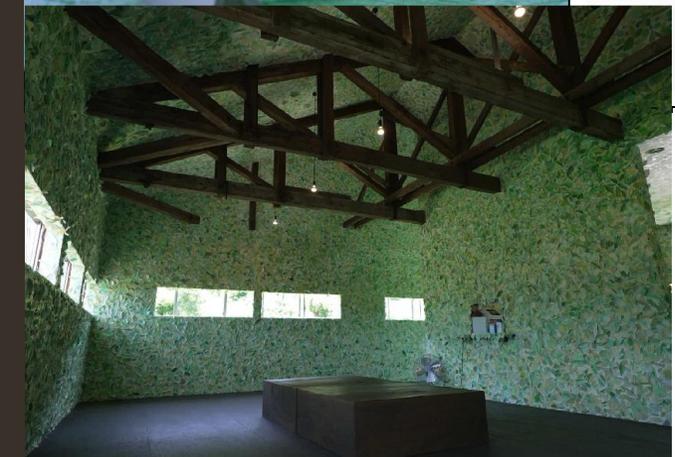
→市内の地区自治組織と協働しアンケート
やフォーラム開催

- ・ 「地域共生社会づくりフォーラム」
2月28日開催





大地の芸術祭ワークショップへの参加



妻有地域包括ケア研究会のみで、
葉はひとりには希しいのでござん。

「みどりの部屋プロジェクト」の酒百宏一です。

この度はプロジェクトに参加いただき改めてお礼と感謝を申し上げます。
おかげさまで7月30日からの夏会期開始に合わせて作品の「みどり」をイキイキとした力強い葉っぱで更新することができました。
こちらではおよそ3000枚の葉っぱと認識しています。

みなさんにご協力いただいたこの作品を会場で体感していただきたかったので現在動画を作成していますので、また楽しみにしていただければと思います。
このような文面でのご挨拶となつてしまい、大変失礼しました。

今後も作品の成長を楽しみに見守っていただければと思います。
ありがとうございました！

2022.9.10

みどりの部屋プロジェクト 酒百宏一

感染症対策スキルアップ研修

主催：十日町いきいきエイジング講座・妻有地域包括ケア研究会
感染症対策セミナー
オミクロン株流行を振り返り、
これからの感染症対策を考える

新型コロナウイルス感染症はオミクロン株の感染流行により今年7月上旬より第7波が押し寄せ、爆発的な感染を起こし、管内の福祉介護施設で複数のクラスターが発生しました。
そこで、今までの感染症対応を振り返り、これからの感染症対策の在り方について専門家を交えて考え、今後の方向性を見出し、理解を深めます。

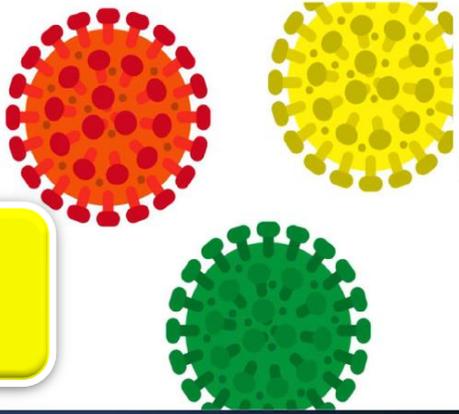
- ・日時 令和4年11月10日(木曜日)
午後4時00分～5時30分
- ・座長 十日町いきいきエイジング講座
特任助教 白倉悠企先生
- ・助言者 県立十日町病院 内科部長 堀好寿先生
感染症認定看護師 菅井洋子氏
- ・事例提供者 2名(予定)
- ・方法 zoomウェビナーによるオンライン研修会
- ・申し込み 不要です。下記アドレスで入室できます。
(11月10日午後3時45分より入室できます)
URL:<https://care.tokamachi.life/221110/>




お問合せ先 事務局
十日町市社会福祉協議会 担当 柳
電話 025-750-5010 / FAX 025-752-7020
E-mail jimukyokutyo@tkm-shakyo.or.jp

主催：十日町いきいきエイジング講座・妻有地域包括ケア研究会
後援：十日町地
十日町市

**新型コロナウイルス感染症研修会
(新潟大学寄付講座・ケア研究会共同開催)
福祉緊急事態宣言**



**妻有地域
福祉緊急事態宣言**

2022年8月18日
妻有地域包括ケア研究会



活動の中核

その2

人材育成、サービスの質の向上に向けた取り組み

- ①人材育成への取り組み
- ②サービスの向上に向けた取り組み
- ③未来の担い手育成への取り組み



① **研修会の共同開催**
新入職員研修・スキルアップ研修
感染症対策研修

② **研究発表会の企画・運営**
→医療、介護、福祉、行政の研究発表

③ **十日町市主催「まちの産業発見塾」**
ケア研究会専用ブース設置

※「まちの産業発見塾」：市内中学生・高校生対象とした職業紹介イベント

○福祉出張授業 **「未来の担い手育成事業」**
小学校・中学校・専門学校等への上出張授業

○福祉の資格・職場ガイド
「妻有福祉ジョブ」作成と学校への配布

主催：十日町いきいきエイジング講座・養有地域包括ケア研究会

感染症対策セミナー

オミكرون株流行を振り返り、
これからの感染症対策を考える

新型コロナウイルス感染症はオミكرون株の感染流行により今年7月上旬より第7波が押し寄せ、爆発的な感染を起こし、管内の福祉介護施設で複数のクラスターが発生しました。

そこで、今までの感染症対応を振り返り、これについて専門家を交えて考え、今後の方向性を見

・日時 令和4年11月10日(木曜日)
午後4時00分～5時30分

・座長 十日町いきいきエイジング講座
特任助教 白倉悠企先生
・助言者 県立十日町病院 内科部長 堀
感染症認定看護師 菅

・事例提供者 2名(予定)

・方法 zoomウェビナーによるオンラ

・申し込み 不要です。下記アドレスで入室
(11月10日午後3時45分より入
URL:https://care.tokamachi.lif

お問合せ先 事務局
十日町市社会福
電話 025-750-501
E-mail jimukyo

主催：十日町いきいきエイジング講座・養有
後援：十日町地域振興局健康福祉部 つまり
十日町市 津南町 (すべて予定)

感染症対策研修会の企画・運営

お問合せ先
市医療福祉総合センター
025-757-3511 / FAX 025-757-3414
E-mail t-care@city.tokamachi.lg.jp

主催：十日町市・養有地域包括ケア研究会
共催：新潟県十日町地域振興局健康福祉部、つまり医療介護連携センター

医療・介護従事者等感染症対策支援事業(コロナ対策)

シリーズ
第3弾

新型コロナウイルス感染症シリーズ研修会
感染症予防の基礎を学ぶ

当たり前のように行うこととされている感染予防ですが、なぜ必要なのかを
知っていますか。知っているのと知らないのでは、感染予防を行うことへの
意識が違ってきます。

今回、感染症の基礎を学び、感染対策・感染予防の必要性を理解し、感染予
防についてのスキルを身に付けるため、概ね入職3年未満の職員を対象に研修
会を開催します。

日時 令和3年11月18日(木) 午後1時30分～3時

会場 医療福祉総合センター 講堂

講師 新潟大学大学院医学総合研究科
十日町いきいきエイジング講座
特任助教 白倉 悠企先生

対象 介護・障がい者支援事業所で働く
概ね入職3年未満の職員

内容 ①感染症の基礎知識(新型コロナウイルス感染症を含む)
②個人防護具の意義と着脱の手順

申込み 別紙にて11月15日(月)までにお申込みください。



介護職員等スキルアップ研修会の企画・運営

グループワークの基本

- ・グループワークとは
- ・皆さん自身が主体的・積極的に意見交換・情報交
換しながら学びを深める研修方式
- ・進め方とルール
- ・自己紹介
- ・司会者、記録者、発表者を決める
- ・積極的な参加
- ・短縮された時間でまとめる
- ・積極的交換の場にする

H
シート研修会
佐橋麻理子氏



つまり地域包括ケア実践発表会
の企画・運営

十日町病院外来における
感染対策 VS コロナ

県立十日町病院外来 大淵美保(看護師)

法人役職員研修会の企画・運営



多職種協働セミナー（IPEセミナー）



中高生向けサマーワークキャンプ



福祉出張授業の開催



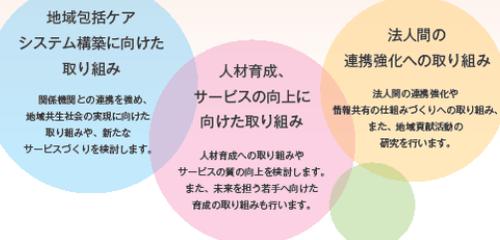
まちの産業発見塾出展



妻有地域包括ケア研究会とは

「妻有地域包括ケア研究会」は、新潟県十日町市・津南町（通称「妻有地域」）の高齢者や障がい者が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことのできる地域包括ケアシステムの構築を目指して2016年4月に結成されました。

社会福祉法人と行政が一体となって、妻有地域の現状や課題、将来像等について、協議検討・提案等を行うことで、より質の高い福祉サービスの提供と人材育成、福祉の仕事のイメージアップに取り組んでいます。



「ふくし出張授業」をご活用ください。
「福祉の仕事のご紹介」「認知症のお話し」など様々な内容について学校へ出張授業を行います。

今、地域で求めているのは、
皆さんの“やる気”です。



妻有地域包括ケア研究会

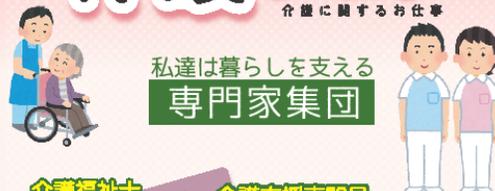
〒948-0082
新潟県十日町市本町2丁目226-1
十日町市民交流センター「分じろろ」3F
事務局 十日町市社会福祉協議会
TEL:025-750-5010 FAX:025-753-7020
http://www.t-roc.jp



市内の中学生をターゲットに全員へ配布し、介護、福祉の仕事への理解や資格取得方法についての理解を深めてもらうことを狙いました。

つまり 妻有の里の介護ジョブ

介護に関するお仕事



妻有地域包括ケア研究会フロデュース

「妻有の里の介護ジョブ」作成し管内中学校へ配布

こんな仕事が君を待ってる!!

介護福祉士 介護の専門資格です。専門学校や大学での単位取得をして国家試験に合格する必要があります。無資格の方は介護の仕事の経験を積み、専門の勉強をすることで受験ができます。高齢者施設などで活躍しています。	介護支援専門員 ケアマネージャーとされています。介護福祉士や看護師程度の資格を持ち、仕事の経験を積むと就職できる資格です。様々な制度と利用者を結び付けて福祉サービスの利用などについて計画します。利用者や家族の良き相談相手となります。
保育士・保育教諭 幼児を保育する専門資格です。保育士さんは保育所や児童養護施設で必要とされる資格です。保育教諭は認定こども園で働く保育士と保育教諭の両方の資格を持つ職員のことを言います。いずれも専門学校や短期大学、大学などで専門の勉強をして国家試験に合格する必要があります。	社会福祉士 福祉の専門資格です。高齢者や障がい者の相談に応じたり、人権を守る大切な仕事に従事します。福祉の様々な分野で活躍しています。大学などで専門の勉強をして国家試験に合格する必要があります。福祉で働く者の憧れの資格でもあります。
看護師 病院や診療所をはじめ高齢者や障がい者の施設などあらゆる分野で活躍する医療従事者です。最近では家で療養されている方へ看護を行う訪問看護ステーションでの活躍が広がっています。新型コロナウイルス感染症対策でも大活躍です。養成学校や大学で専門の勉強をして国家試験に合格する必要があります。	理学療法士・作業療法士 病院や診療所においてリハビリテーションの従事する専門資格者です。大学や養成校で勉強し、国家試験に合格する必要があります。高齢者施設でも多くの石資格者が運動的機能訓練や生活機能訓練で活躍しています。また、歩行補助具など福祉機器の選定や活用指導などあらゆる場面で活躍しています。
管理栄養士・栄養士 食事に関するスペシャリストです。大学などで勉強をし、国家試験に合格する必要があります。高齢者施設などでは献立の立案や栄養管理に従事しています。要介護高齢者等への栄養ケアマネジメントや嚥下力が低下した方への食の提供など活躍の場が広がっています。	生活相談員 特別養護老人ホームなどの入所施設やサービスセンターで活躍しています。サービス利用に係る相談や入所や入所に至る手続き、介護現場との調整など様々な場面で活躍しています。社会福祉士や社会福祉士の資格が必要です。
支援員 障がい者サービス事業所で利用者支援にあたる職種です。資格は問われませんが介護福祉士や保育士の資格者が活躍しています。身体障がい、知的障がい、精神障がいなど幅広い分野でそれぞれの障害特性や心の在り方を高めながら活躍しています。	サービス管理責任者 障がい者サービス事業所で利用者やご家族と相談を行い個別支援計画を作成します。そして利用者それぞれに適切な支援ができるように支援現場と調整にあたります。支援員の経験を積み上げ専門研修を受講する必要があります。

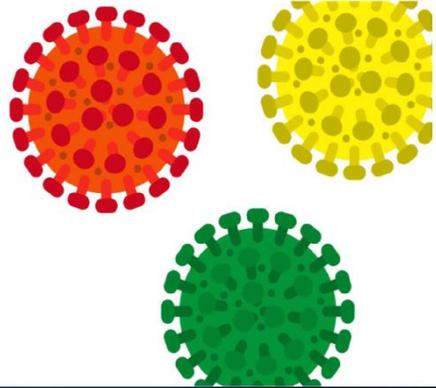
こんな職場が君を待ってる!!



その3

法人間の連携強化への取り組み

- ①法人間の連携強化へ向けた取り組み
- ②社会福祉法人の公益的取組と地域貢献活動の研究への取り組み
- ③法人間の情報共有の仕組み作りの取り組み



妻有地域
福祉緊急事態宣言

2022年8月18日
妻有地域包括ケア研究会



十日町タイムス社掲載記事20220822

- ① 新型コロナウイルス感染症対策の情報共有
 - ・ 会員間の物品共同購入
 - ・ クラスタ発生時の物資提供

- ② 共通課題についてのアンケート
コロナ影響度調査の実施

- ③ 「妻有地域福祉緊急事態宣言」の配信
R4.8.18宣言



その4
組織体制の強化

- ①専任事務職員の確保と事務局体制の強化
- ②2020年度以降の活動の在り方を研究する

①「社会福祉連携推進法人」について学ぶ
➡シンポジウム、フォーラムの開催

➡令和4年度
「妻有地域医療連携推進法人設立検討会」
への参加、情報共有

➡令和5年度 2023年7月3日
医療、介護、福祉の新たなプラットフォーム

一般社団法人
妻有地域メディカル&ケアネットワーク創設

妻有地域の医療・介護・福祉の連携の在り方を考える3回シリーズでシンポジウム、フォーラムを開催

急遽開催決定！

シンポジウム

「妻有地域の医療介護を考える会」

ゲストシンポジスト

・新潟県福祉保健部長 松本晴樹氏
 ・独立行政法人福祉医療機構 経営サポートセンター 千葉正展氏

コメンテーター

・津南町長 桑原悠氏
 ・新潟大学大学院医歯学総合研究科 十日町いきいきエイジング講座 特任教授 菫蒲川由郷氏

日時

2021年9月4日(土)
 午後6～8時

開催形式

オンラインシンポジウム
 ZOOMウェビナーを使用したオンラインシンポジウム形式で開催します。

アドレス

<https://care.tokamachi.life/symposium/>

※上記アドレスは9月4日(土)午後5時30分より入室できます。

QRコード



問い合わせ

十日町市中魚沼郡医師会 事務局 担当 高橋・庭野
 電話025-752-3606 メール: to.na-ishikai@luck.ocn.ne.jp

ここに住み続けるために…

妻有地域の人口減少、少子高齢化は早いスピードで進行しています。住み慣れた地域で暮らし続けるため医療の行方は？医療介護の連携は？一緒に考えてみませんか。

参加

どなたでも参加できます。妻有地域にお住まいの方。医療・介護に興味、関心のある方など。

注意

パソコンにZOOMのインストールが必要です。ご確認ください。参加中はマイクをミュートにして下さい。ご協力をお願いします。

主催

「妻有地域の医療介護を考える会」実行委員会

- ・十日町市中魚沼郡医師会
- ・つより医療介護連携センター
- ・妻有地域包括ケア研究会
- ・津南町立津南病院
- ・新潟県立松代病院
- ・新潟県立十日町病院
- ・新潟大学大学院医歯学総合研究科
- ・十日町いきいきエイジング講座

後援

- ・新潟県十日町地域振興局健康福祉部
- ・津南町



十日町市観光協会より

「妻有地域の医療と介護を考える会」主催 第2回シンポジウム

診る場所、看取る場所

～医療・介護の支え手不足時代の地域包括ケアシステムを考える～

2022.

2月5日(土)

参加無料

妻有地域にお住まいの方や医療・介護に興味・関心をお持ちの方など、どなたでも下記アドレス又はQRコードよりご参加下さい。(事前申し込み不要)

18:00 - 20:00 (Web入室開始17:30)

会場：オンライン(ZOOMウェビナー)

参加アドレス

<https://care.tokamachi.life/symposium2225/>



シンポジスト

中島脳外科内科クリニック 院長 中島 拓 氏

山口医院 院長 山口 義文 氏

新潟県立十日町病院 患者サポートセンター長 角道 祐一 氏

十日町福祉会 高齢事業部長 田中 眞由美 氏

妻有福祉会 主任介護支援専門員 越井 久美子 氏

座長

新潟大学 十日町いきいきエイジング講座 特任教授 菫蒲川 由郷 氏

○主催

- 「妻有地域の医療と介護を考える会」
- ・十日町市中魚沼郡医師会
- ・妻有地域包括ケア研究会
- ・新潟県立十日町病院
- ・新潟県立松代病院
- ・津南町立津南病院
- ・新潟大学 十日町いきいきエイジング講座

○後援

- ・新潟県十日町地域振興局健康福祉部
- ・十日町市
- ・津南町

「妻有地域の医療と介護を考える会」主催

医療介護連携推進フォーラム

「妻有地域の医療介護の連携推進を目指して」

～日本海ヘルスケアネットから学ぶ医療介護の連携～



参加費

無料(申し込み不要)

妻有地域にお住まいの方、や医療・介護、福祉に興味、関心のある方など、どなたでも参加できます！

QRコード

下記のQRコードから入りください。どなたでも入場できます。なお、フォーラムへの入場は2月22日(火曜日)午後6時30分よりできます。



参加アドレス

<https://care.tokamachi.life/medical-forum2222/>

○日時 2022年2月22日(火) 19:00~21:00

○会場 オンライン形式(ZOOMウェビナー) ※アドレスは右記QRコード参照

第1部 基調講演

地方独立行政法人 山形県 酒田市病院機構 理事長
 地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネット 代表理事 栗谷 義樹氏

第2部 ディスカッション

助演者：日本海ヘルスケアネット 代表理事 栗谷 義樹氏
 意見発表者 富田医院 院長 富田 浩氏
 県立十日町病院 院長 吉瀬 文俊氏
 津南福祉会 本部長 上村 寛人氏
 妻有地域包括ケア研究会 会長 松村 真氏
 座長 新潟大学十日町いきいきエイジング講座 特任教授 菫蒲川由郷氏

主催：「妻有地域の医療と介護を考える会」

- ・十日町市中魚沼郡医師会
- ・県立十日町病院
- ・県立松代病院
- ・町立津南病院
- ・新潟大学大学院医歯学総合研究科十日町いきいきエイジング講座
- ・妻有地域包括ケア研究会

妻有地域で生まれ育ち、暮らしていることが良かった心から思える未来を共に考えてみませんか？皆さんのお声も当日ぜひお聞かせください。お待ちしております！事務局より

お問い合わせ

一般社団法人十日町市中魚沼郡医師会
 事務局 担当：高橋 庭野
 〒940-0002
 十日町市本町2丁目226-1
 電話025-752-3606
 FAX 025-750-1422
 to.na-ishikai@luck.ocn.ne.jp

後援

- 新潟県十日町地域振興局健康福祉部
- 十日町市 津南町
- 十日町市中魚沼郡医師会
- 魚沼薬剤師会中魚沼支部
- 新潟県看護協会十日町支部
- 新潟県栄養士会十日町支部

妻有地域の医療・介護・福祉の新たなプラットフォーム

「一般社団法人妻有地域メディカル&ケアネットワーク」 設立

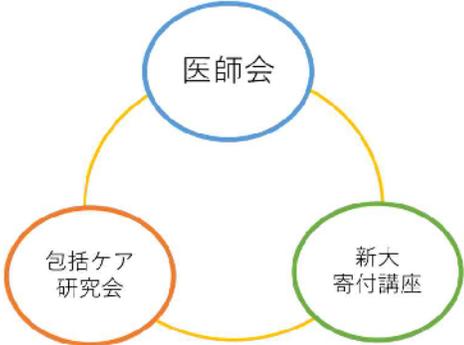


代表理事 上村齊医師会長

2023年7月7日報道発表

6. 法人の組織・運営体制

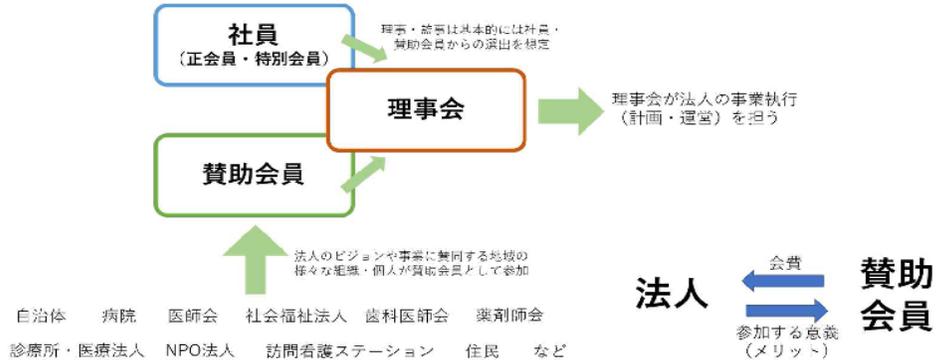
設立時社員及び理事 (3名以上必要)	
上村 齊 (代表理事)	十日町市中魚沼郡医師会長
松村 実	妻有地域包括ケア研究会長
高蒲川 由郷	新潟大学十日町いきいきエイジング講座特任教授
設立時監事 (1名以上必要)	
柳 久	十日町市社会福祉協議会事務局長



- 十日町市中魚沼郡医師会、妻有地域包括ケア研究会、新潟大学十日町いきいきエイジング講座の3つの組織が中心となり（それぞれの代表者が社員となり）、一般社団法人を設立。
- 今年度については、実質的な事務局機能についても3者で分担して行う。

当面の運営の在り方

6. 法人の組織・運営体制(目指す形)



目指す組織体制

これからの活動

妻有地域包括ケア研究会の活動を再定義

○地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会づくりへの貢献

➡医療、介護、福祉の連携強化の必要性

妻有地域での新たなプラットフォームへの貢献

○人材確保・人材育成

➡福祉人材の減少、枯渇対策は急務

「校舎のない学校づくり」への挑戦

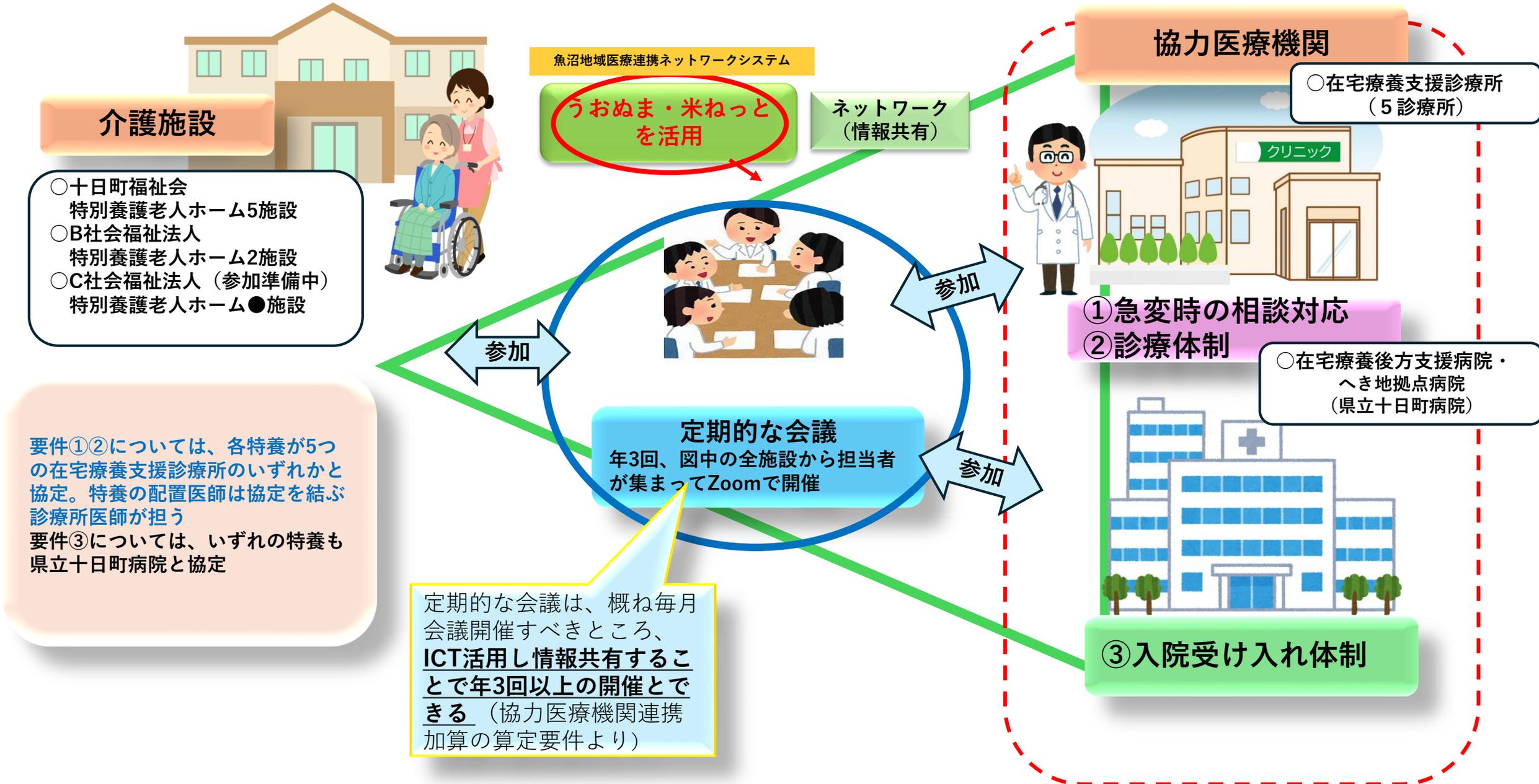
○法人間連携、事業所間連携の強化

➡感染症対策、災害対策、認知症対策、事業継続対策等

※本来あるべき姿を実直に行う

3. 協力医療機関との連携体制構築の実際 (診療報酬・介護報酬改定への対応)

十日町市における協力医療機関との連携体制の構築（イメージ図）



連携協議スタートが早かった！

○要因 1 「話しやすい環境」

一般社団法人妻有地域メディカル&ケアネットワークという医療、介護、福祉のプラットフォームがあった。

○要因 2 「顔の見える関係」

新型コロナウイルス感染症パンデミックを乗り越えてきたメンバー（医療・介護・行政）

例）妻有地域新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会 毎週金ZOOM会議 3年間157回開催

○要因 3 「ウインウインの関係」

互いに報酬を取りに行く姿勢 病院も在宅支援診療所も介護施設も「生き残り」作戦

○要因 4 「代診医システム」

特養嘱託医代診システムの存在・・・強化型在宅支援診療所の医師が輪番制にて代診

○要因 5 「ICTの活用」

魚沼圏域医療介護連携ネットワーク「**うおぬま・米ねっと**」 <http://uonuma-mynet.org/>

スタートまでの経過

- 令和6年5月 医師会事務局と包括ケア研究部会との協議開始 ※当面2法人7特養を対象とする
7月スタートに向け準備（在宅支援診療所の医師との情報共有）
- 6月 県立十日町病院患者サポートセンターとの協議
- ①制度の説明
 - ②現行の協力病院契約との違いの確認
医師 看護師 事務長
 - ③種々のフォームの確認
 - ④救急時の対応方法の協議
- 7月 協定書締結
- ・強化型在宅支援診療所と法人
 - ・十日町病院と法人
- 7月17日 **第1回合同カンファレンス開催**（リモート開催）
- 参加者：医師会事務局 在宅支援診療所の医師5名
十日町病院患科 医師・看護師 対象7特養 施設長 生活相談員等 法人
事業担当者 一社妻有メディケア担当者など 総勢33名
- ※令和6年度内3回の開催を実施

ICTの活用 「うおぬま・米ねっと」

「**うおぬま・米ねっと**」は新潟県の魚沼地域（十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町）で稼働している、地域医療介護連携ネットワークです。<http://uonuma-mynet.org/>

平成26年（2014年）に医療情報の共有からスタートし、平成31年（2019年）のシステム更新において機能を拡張して介護情報も共有できるようになりました。

魚沼圏域人口15万中 48,973人 加入率34.0%

65歳以上加入率 62.0%



こめたろう
の
部屋

合同会議（カンファレンス）の持ち方

- ①日程調整 医師会事務局
強化型在宅支援診療所の月1回のカンファレンスに併せて開催
- ②事前提出
 - ・ 合同カンファレンス入所者リスト兼カンファレンス記録表
 - ・ 新入居者リスト
 - 施設は事前作成し、うおぬま・米ねっとに添付しておく
 - ・ カンファレンス参加者名簿
- ③ZOOM手配 医師会事務局がURL配信
- ④開催 進行は医師会事務局と法人事業担当者の輪番制
※開催時間は18：30～20：00 時間限定
- ⑤進行方法
 - ・ 施設担当者より著変のあった者、入院者、新入居者について情報提供
 - ・ 各嘱託医師からの情報提供のあった入居者についてのコメント
 - ・ 十日町病院患者サポートセンター医師からの入院者についてのコメント

参考：合同カンファレンス入所者リスト兼カンファレンス記録表（サンプル）

第3回協力医療機関連携合同カンファレンス入所者リスト兼カンファレンス記録表

施設名	特別養護老人ホーム〇〇〇				記入日	令和7年〇月〇日	カンファレンス開催日 令和7年3月19日	
	名前	生年月日	年齢	介護度	入居日	新入居者の状態	施設嘱託医コメント	十日町病院コメント
新入居者	十日町 太郎	昭和3年7月20日	96	4	令和6年4月1日	鉄欠乏性貧血		
		昭和5年3月11日	94	5	令和6年5月15日	意識障害、腸閉塞で入院歴		
		大正15年4月30日	98	3	令和6年5月30日	脳幹梗塞 尿道カテーテル		
		大正15年3月14日	98		令和6年6月25日	重度の難聴		
		昭和11年1月9日	89		令和6年7月11日	5月以降レベルダウン		
入院者		昭和7年2月8日	93	4	令和6年4月1日	十日町病院 急性胆管炎		
		昭和29年5月8日	70	5	令和6年4月9日	十日町病院 尿路感染		
		昭和7年2月8日	93		令和6年5月2日	魚沼基幹病院 急性胆管炎		
		昭和22年12月24日	77		令和6年5月14日	十日町病院 尿路感染		
		昭和16年3月21日	83		令和6年6月1日	十日町病院 肺炎		
		大正14年2月26日	100		令和6年6月6日	十日町病院 肺炎		
		昭和7年9月20日	92		令和6年6月12日	十日町病院 誤嚥性肺炎		
		大正12年9月22日	101		令和6年6月27日	十日町病院 肺炎		
経過観察者		昭和7年2月8日	93	4	総胆管結石 急性胆管炎で入退院を繰り返している			
		大正11年6月29日	102	5	食事摂取困難、痰吸引回数増、状態悪化傾向にあるため看取り対応			
		昭和18年6月1日	81		全身状態低下し、終末期状態のため家族同意を得て看取り対応			
		昭和18年5月10日	81		徐々に状態低下、血圧低下傾向のため看取り対応			

年齢は、関数が組んであります。

- 注1) 第3回目カンファレンス入所者リストの提出は、3月3日(月)現在で作成し、3月7日(金)までに提出願います。
- 注2) 新入居者は、12月18日の第2回目カンファレンスから3月3日までの間において、特に対応困難な入所者について記入願います。
- 注3) 入院者は、3月3日現在で入院している方について記入をお願いします。それまでは、随時Teamの経過観察に投稿願います。
- 注4) 経過観察者は、3月3日現在で経過観察となっている方を記入願います。それまでは、随時Teamの経過観察に投稿願います。
- 注5) カンファレンス入所者リスト提出以降の新入居者、入院者及び経過観察者については、カンファレンス当日口頭により報告ください。
- 注6) 新入居者のうおぬま・米ねっと加入申込書や連携変更依頼書を提出する際は、備考欄に必ず「十日町市中魚沼郡医師会(特養)」と記入願います。

参考：新入居者リスト（サンプル）

第3回協力医療機関連携合同カンファレンス新入居者リスト

施設名	特別養護老人ホーム〇〇〇					記入日	令和7年 月 日
	名 前	生年月日	年 齢	介護度	入居日	入居者の状態	
新入居者							

注1) 新入居者リストは、令和6年12月18日から令和7年3月3日の間における新入居者について記載願います。

注2) 新入居者のうち、カンファレンスが必要な方は、協力医療機関連携合同カンファレンス入所者リスト兼カンファレンス記録表に転記してください。

注3) 新入居者リスト提出以降の新入居者は、カンファレンス当日口頭により報告ください。

注4) 新入居者のうおぬま・米ねっと加入申込書や連携変更依頼書を提出する際は、備考欄に必ず「十日町市中魚沼郡医師会(特養)」と記入願います。

平素の情報共有の在り方

対象施設と嘱託医（強化型在宅支援診療所5か所）との入居者情報の共有（約束事）

- ①全施設入居者のフェイスシートを作成 ※ほぼ同一フォーム
- ②全入居者は「うおぬま・米ねっと」に加入 ※医療機関、薬局紐づけ
- ③全入居者のフェイスシートを「うおぬま・米ねっと」の個人台帳に添付
- ④フェイスシートの更新はケアプラン更新時、または心身の状態が変化した場合
- ⑤新入居があった場合、①②③の手続きを速やかに行う

○代診医システム

施設嘱託医が病気、学会、休日等で不在の場合、強化型在宅支援診療所の医師が輪番で往診又は死亡診断を行う仕組み

4. 会員の声と展望

会員法人の声

○妻有地域の福祉の統合です。『サービスの均質化と人材の共有で持続可能な福祉』
福祉の総合窓口を作れないかという意見がありましたが、とても良いと思います。

空きベッドの把握、待機者リストの共有、ご利用者様やご家族様の求めに応じられるサービスの案内ができる窓口はあるべきです。特にスマホでそれらの対応ができればベストです。共同購入もその第一歩ではあります。

各法人、それぞれに背負う歴史や地域の期待のほか、各種しがらみ等もあるでしょうが今後さらに人財と利用者の取り合いになっていく中で最後まで生き残った法人が全てを総取りするのを待つサバイバルでは無駄な消耗戦を続けることとなります。

競争原理によってより良いサービスが追及されている状況とも思えません。消耗すればサービスの質が低下するだけです。

会員法人の声

○妻有地域包括ケア研究会の発足当時と現在では、周囲の環境が変わってきており研究会の会員だけの議論では、地域包括ケアは難しいように感じております。山間地の法人は、人口減少、少子高齢化により人材の確保や利用者の確保が厳しい中で、事業費、事務費だけは膨らみ、地域包括ケアの構築も重要ですが、その大切な社会資源が限界に近づいています。

○この活動を通じ、他法人の管理者や経営を担う立場の方とお話しできたことはこの上なく良い機会だったと確信しております。例えば職員採用の事や共同購入などの話も、当法人と同様に苦しい思いをされていることが分かり、この地域における状況が良く理解できました。何よりも新型コロナウイルス感染症が発生した際の対応については非常に心強く、振り返って考えると、包括ケア研究会の活動に参加していて本当に良かったと感謝の思いでいっぱいです。有事の際に、他の法人と協力し合い助け合える良い機会だったと思っています。

会員法人の声

○法人が小さいがゆえにやれない事もあるというのが本音です。やはり人材難、法人の規模などが理由でしょうか。この活動を通じ、法人間の横の繋がりが維持できることは大きなプラスだと考えております。
また医療との連携により様々な取組があることを歓迎しています。

○あと10年するとこの地域は様変わりします。働き手がない。要介護高齢者が減少に転じる。子供は減少する。この状況に対応できるかどうか問われていると強く感じます。医療、介護、障害の各サービスの在り方を胸襟開いて議論すべき時期に来ています。自治体に無いものねだり（お金、知恵）をしても時間の無駄です。医療、介護、福祉サービスは地域づくりの根幹と考え、法人間で課題意識を共有し、理念を作り上げて活動をするべきと考えます。

一般社団法人妻有地域メディカル&ケアネットワークが目指すこと

1. 地域内の医療・介護・福祉に携わる様々な組織が理念や方針を共有し、互いの利害関係から離れて、住民が必要とする医療・介護・福祉の提供体制を地域に残すために、真の連携を検討し形作る、協力・協働体制の構築が必要。
2. 法人設立によって、国や県からの財政・技術支援の受け皿ができる。
3. 市・町から委託を受け、地域住民の生活向上に資する様々な事業（計画の作成を含む）を実施・推進することが可能となる。
4. 民間企業との契約、大学との共同研究事業の実施が容易になる。
5. 今後高齢化・人口減少が進む都市部が参考とするような先進的な医療・介護・福祉連携のモデルを提示する。

おわりに

医療・介護DXは必須です。

中山間地は、人がいない、医師がいない、インフラがない。

ないないづくしの中で、医療・介護・福祉サービスを持続可能なものにしていく必要があります。

新たな地域医療構想の要は、「医療・介護連携」です。

地域包括ケアシステムはネットワークづくりを意味します。

改めて医療、介護、福祉のシームレスな連携作りを行う必要があります。

社会福祉連携推進法人、地域医療連携推進法人、そして、第三の選択肢は？

ご清聴ありがとうございました。



一般社団法人妻有地域メディカル&ケアネットワーク
包括ケア研究部会 部会長（理事） 松村実

<https://care.tokamachi.life/>

所属：社会福祉法人十日町福祉会 常務理事

<https://www.fuku-tokamachi.or.jp/>